

### 1 自己評価及び外部評価結果(3F)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500169		
法人名	株式会社 AKIコーポレーション		
事業所名	グループホーム 咲こまい		
所在地	名古屋市市中村区佐古前町1-26		
自己評価作成日	平成28年12月31日	評価結果市町村受理日	平成29年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人なごみ(和)の会		
所在地	名古屋市千種区小松町五丁目2番5		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

咲こまいは昨年に引き続き、外出レクに力を入れており、28年2月から認知症カフェ(咲こまいカフェ)を月に1回のペースで開催している事です。初詣、春の花見、秋の紅葉を1年の大きな外出レクとし、利用者様やご家族様にも大変喜んで頂いています。その他にも今年はお家族様同伴での初の宿泊の旅や、なばなの里のイルミネーションは2年連続で行くことができました。利用者様の強いご意向で叶えたカラオケボックスでのレク、野球観戦、ラーメンレク、昭和日常博物館へも参りました。月に2~3回の喫茶レクも引き続き行く事ができています。また、認知症カフェでは毎月、ご近所様へポスター掲示や回覧板などをお願いにあがり、より馴染み関係づくりができていと思っています。集客については大きなイベントである夏祭り、ハロウィン、餅つき大会などは民生委員様のご協力のもと大変たくさんの地域の方がお越し下さり嬉しい悲鳴を上げる程になりました。今後カフェにつきましては区のいきいきさん主催の会議や研修等で課題を話し合い意義のある会にしていきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

外出支援に力を入れており、ホーム全体で、あるいはフロアごとに、また個別でいろいろな形でのレクが行われている。利用者が喜んでくれる、楽しんでくれることで職員もまた支援や仕事がとても楽しいものとなり、次へとつながっている。職員同士のコミュニケーションがよくとれており、利用者の様子やちょっとした変化、思いを全体で共有している。地域交流にも力を入れており、認知症カフェの開催、夏祭りやハロウィン行事への誘いかけや訪問、地域の盆踊りへの参加などが今年度もあった。こつこつと関わりを広がっていったこともあり、参加者が増加した。ホーム内でのレクも、利用者の思いを汲んで取組み、カラオケ機器のレンタル、おやつ作り、習字、貼り絵などを楽しんでいる。また今年度は子猫をホームで飼い始め、利用者の満面の笑みを引き出している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	各りびんぐ・玄関に理念を、掲載している。毎朝申し送り時に「咲こまい」の理念を職員で合唱し共有している。	「いきいきした暮らしを支援する」の理念をふまえ、利用者一人ひとりの思いを汲み上げ、個別支援にとりくんでいる。理念は掲示され、職員は毎朝唱和することで再確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会にも参加しており、町内会議の場所を提供している。行事の参加も呼び掛けて交流の場を増やしている。敬老会など参加し、夏祭りには学区の女性会さんが踊りの御指導やお祭りに参加して頂く事が出来総勢100名近くが1フロアに集結しました。	町内会に加入すると共に会議の場を提供している。地域の人たちと密な関わりをもち協力体制を築いている。夏祭り、ハロウィーンなど地域から多くの人々が来所してくれるようになった。毎月認知症カフェの開催もし、さらに交流がひろがるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を通して、ホームの活動を知って頂き、行事など地域の方々の訪問を増やす事に努めている。また、月に1回は認知症カフェを開催しご近所様の友達作りの場として提供している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域運営推進会議を2ヶ月に一度開催しており、積極的に意見を頂きたい参加して頂く事で、サービスの向上に努めている。地域運営推進会議や行事に参加して頂く事で、利用者様やグループホームを理解して頂いている。	運営推進会議は2ヶ月ごとに開催され、利用者や家族と、地域代表やいきいき支援センターからの参加も得て、ホーム行事の報告や、それに対する助言、反省点をいかして次につなげる提案など活発な話し合いの場となっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは地域運営推進会議の場以外でも、意見や助言を頂き、サービスの向上に努めている。また、認知症カフェの研修や会議を通して協力関係を築きあげている。	生活保護者の受け入れもしており、区の担当者と連携をとっている。外部研修に職員が参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	フロア会議の時や申し送りの時に身体拘束についての勉強会を行っている。身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。また、玄関・各階のエレベーターの施錠については、防犯上・立地的な問題での常識範囲内で行っている。	基本的に身体拘束はないが、安全第一を考えて転倒防止のためベッド柵の利用を家族が申し出た場合など、都度職員で話し合い、家族の理解を得た上で実施することはある。立地上交通量の多い幹線道路沿いのため、エレベーターの施錠はされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	フロア会議の時や申し送りの時に虐待防止についての勉強会を行っている。職員全員が虐待に対して正しい知識を持ち、言葉でも虐待になる事を理解してもらい、利用者の尊厳が失われないよう、努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者・リーダーが主となり権利擁護に関する内容を学んで伝えていっている。また、いつでも助言や説明ができる様に努めている。市の研修にも2名参加した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書・重要事項説明書など読み上げて、確認しながら説明を行っている。不安点や疑問点がある場合はその都度説明を行い、理解や納得して頂いた上で、同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族様から苦情や要望、相談などの意見がいつでもできるように、意見箱の設置や意見しやすい環境作りに努めている。	面会時に家族と話す機会を作っている。小さな変化でもすぐ管理者は家族に電話連絡をとっており、また、家族からの意見要望はきいている。利用者の外出要望にも個別で対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	フロア会議や定期的に職員と面談などの場を設け、コミュニケーションを図っている。それを踏まえ、職員からでた意見をできるだけ運営に反映出来る様努めている。	職員は利用者の様子をみながら、支援の方法や変更について職員同士で話し合い、リーダーや管理者へ意見をあげており、すぐに実践できることも多い。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各種資格手当や責任能力に応じた給与と体系をとっている。また、様々な講習などの情報提供を促し、各自が向上心を持てるような環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は施設外研修に正社員には勤務としてパートには受講料と交通費は支給し行きやすい環境づくりをしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	中村区の認知症専門部会や近隣病院主催の研修に適時参加して、他のグループホームや施設の方と交流をもち、互いに情報交換することにより、サービスの向上・改善に努めている。中村区介護保険事務所連絡会に加入し研修にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入前に事前にアセスメントを行い、職員に利用者様の情報を把握して頂き、職員全体で統一した関わりを行う事で、安心して過ごせる雰囲気づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入前にご家族様からもアセスメントを行い、意見や不安などを聞きだし、提案と一緒に解決していくことで安心して頂き、ホームへの信頼を得る努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の事前面談時に利用者様本人、ご家族様から希望や要望などを伺い、どう過ごしていきたいか、何が必要かを話し合いながらサービス内容を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「利用者様」ではあるが、家族のような何でも話せる、信頼関係の強い関係を築いていきたいと、ホームは家という考えを持ち、関係づくりに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事などに参加して頂き、本人との関わりを持ってもらい、またちょっとした変化も伝えていき、身近な存在である、離れていても安心して過ごしてもらえるよう関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お友達や家族様が訪問時には居室やラウンジなどで個別の空間作りをしリラックスしてお話できる環境作りをしている。また、旦那様がおやつ時に奥様に面会をされた場合は一緒におやつを召し上がって頂くなど配慮している。	一対一で外出する機会を多く作り、ドライブがてら自宅を見たり、冠婚葬祭への参列を支援したりしている。友人や家族が訪問してくれたときにはラウンジ、リビング、居室などそれぞれがなごめる場所を用意している。年賀状のやりとりの仲介もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格や利用者同士の相性などを見極めながら、時には職員が間に入るなどの配慮を行っている。また、個人の時間も尊重し、一人の時間も大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスが終了した後もこれまで同様、相談や情報提供などの支援がいつでもできるような関係で取り組みが出来るように努めている。退所されて1年以上たった方が12/31に遊びに来てくださいました。また、入所前のケアマネさんに会いに行きました。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の事前アセスメントを基に本人の思いに沿った暮らしの支援を行っていくとともに、入居後も定期的に本人や家族様の希望や意向をケアプランに反映させている。	常に利用者の目線で接し、会話や表情、目や喉元の動き等、些細な変化から思いや意向を推し図っている。職員間で頻繁に意見交換を行い、意向に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・ご家族様にアセスメントを行い、これまでの生活歴や生活環境を把握している。サービス利用があった場合は、その時の様子や内容を把握し、馴染みの暮らしができる様に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人一人の介護記録に利用者様の様子・体調の変化などを記録に残し、状況の把握に努めている。また、毎朝と夕方に申し送りを行って、職員間で情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に本人の様子や体調の変化などに注意し、どんなことでもご家族様に情報提供をし、思いを聞き取っている。また、定期的にモニタリングを行い、カンファレンスを開催して、ケアプランに反映している。	介護計画は定期的な見直し他、日頃の利用者様の様子を踏まえ職員間で検討し、変化があれば即座に見直し、現状に適した計画計画を提供している。作成時には家族と話し合い、意見を取り入れている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、利用者様の様子や言葉などを介護記録に記入している。また、職員の引き継ぎの時は、申し送りを行い、利用者様の状況や変化などを伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族様のニーズに対しては、ホームで可能なサービスをご家族様にもご協力を頂き、状況に応じて行っている。また、外部のサービスも取り入れており、柔軟に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの訪問などを通して、興味や関わりを持ってもらい、また地域の催し物にも参加し、毎日の暮らしに楽しみを持ってもらう。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム入居後もかかりつけ医との関係を維持していき、必要に応じて情報を提供してもらったり、必要があれば診て頂く。本人とご家族様の意向を尊重し、適切な医療を受けられるように支援している。ご家族様と一緒に2ヶ月に1回近くの病院に通院してみえる。	ホームの協力医は月5回程往診があり、緊急時には24時間相談できる体制を整えている。希望の病院への受診も可能とし、家族や病院間との情報提供等の連携を図っている。必要に応じて通院支援も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師がみえ、日ごろの健康管理や身体の変化が生じていないか、また相談や必要があれば適切な処置を行っている。24時間オンコール可能である。月に6回程Drが往診に訪れる機会がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は、速やかに看護師に情報提供書を作成してもらい、病院へ情報伝達を行っている。また、病院関係者との情報交換を頻回に行い、早期退院ができる様に努めている。12月に入院した方2名とも病院からの退院許可があり次第、即対応しお迎えに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にホームでの「重度化における指針」を説明して同意を得ている。また、終末期におけるご家族様の意向も把握する努力をしている。ホーム内で、終末期の援助などの話し合いの場を設けて意見を共有している。看取りの方2名あり。	職員には、看護師による講義や指針に沿って勉強会を開き、看取りに対する心構えや認識を持つよう指導している。利用者や家族の意向に添える様、変化がある毎に話し合いの場を設け、その人その人に最適な支援が出来る様に努めている。揺れ動く家族の気持ちに寄り添い、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時や事故発生時の対応や予防策の話し合いを行っている。急変時や事故発生時に職員がパニックにならないよう応急手当などの研修にも行き、実践力を身に付ける努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回防災訓練を行っている。地域にも防災訓練の参加を呼びかけ、協力を得られるような関係づくりに努めている。近隣の店舗に非常時のお願いにも行っている。地域の防災訓練にも参加し関係作りや避難場所の確認を行っている。	防災訓練では、防災意識を高める為に訓練時のリーダーを交代して行い、問題点を具体化して避難経路の見直しや誘導時の問題を提起して話し合っている。学区の防災訓練に参加したり、推進会議で訓練時の問題点や反省点を伝え、地域への協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者様個人の人格を尊重し、一人一人に合った声掛けや接し方を行い、本人の人格を尊重して、ほこりやプライバシーを損ねない対応をしている。また、記録などには個人のプライバシーに配慮している。	職員は、利用者の性格や生活歴、思いや意向の把握に努め、日頃より個々に心地よい接し方に徹している。共同生活の場である為、利用者が居室不在時には施錠をし、プライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションを傾聴して本人の思いや希望が言いやすい関係づくりに努めている。行きたい所やしたい事などお聞きしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、排せつ、入浴などの最低限の決まりはあるが本人の意思を尊重した暮らしを送ってもらっている。喫茶店でのお茶会など参加希望者と出かける。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合った服装で、本人が自己決定した服を着て頂き、室内、外出時と場面に合わせてふさわしい服装を支援している。ご近所の衣料品店で自分の見立てて服を購入しお気に入り着てみる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食、利用者様と職員は同じテーブルを囲み食事を摂っている。利用者様にはお皿拭きなどを担当の仕事として行ってもらい、職員と一緒に片づけを行っている。嚥下状態を細かくチェックし提供し安定した食事摂取を心がけている。	献立は専門業者に委託し、季節感のあるバランスの取れた食事が提供されている。おやつレクを通じ、利用者の希望を叶え、ホットプレートでのお好み焼きやおはぎやケーキ等を利用者と作り、楽しみに繋げている。利用者は食後の食器拭き等の片づけを、率先して実践している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスのとれた献立を提供している。食事量・水分量は毎日職員が摂取量を把握している。個々に合わせて摂取時間や形態も工夫し、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に歯磨き・状況に応じて、舌磨き等の口腔ケアを行っている。また、義歯を使用している利用者様は毎晩洗浄剤を使用し、清潔保持に努めている。毎週月曜日に訪問歯科の治療もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人に合ったトイレ誘導に加え、食事前後などにも行うことにより、少しでも排泄感覚を取り戻してもらうよう支援を行っている。また、利用者様のサインを見落とさないよう少しの変化にも気づけるように努力している。	利用者それぞれの排泄パターンを把握し、随時声掛け誘導している。誘導時は周囲に配慮した声掛けをし、トイレでの排泄がスムーズに出来る様支援している。夜間は睡眠を重視し、個々の排泄状況を把握し対応しており、紙おむつに頼らない様支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を把握している。運動や水分、食事摂取量などに配慮している。便秘が続いた時は、主治医処方の下剤を使用する事もあるが、極力自然排便が出来る様に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、時間やタイミングなど体調を考慮し取り組んでいる。個人のADLに配慮しスライディングボードを使い湯船に入ってもらっている。	週二回の入浴を実施し、順番等決めず利用者のその日の希望や体調に添って支援している。入浴中は職員が必ず付き添い、安楽な入浴に努めている。ゆず湯や菖蒲湯等、入浴を楽しむ機会も設けている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の状態に合わせて、落ち着けるような声掛けなどを行っている。安眠の為に、室内の照明や室温調節を行って、安眠できる環境づくりを行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬前には職員が名前・日付・服薬時を確認し、服薬後は口腔内の確認をしている。また、薬の変更があった場合は、理由などを申し送り、服薬の支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや、リビング内の掃除・食器拭きなどを一人一人に合った能力や役割分担を行う事で、性格感を出している。また、責任感を持ってもらう事で、やる気の向上を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、ご近所の方と挨拶を交わすなど行っている。公園のベンチに座り、他利用者様たちと談笑されたり、外の環境にも触れて頂いている。また、近くの喫茶店や買い物にも出かけ、気分転換に努めている。個人レクも充実しており希望の場所にお連れしている。	毎日の散歩では、利用者が希望すれば喫茶店に行く等、その日の希望に応じて支援している。利用者個々の希望を聴き、ドライブやカラオケ、ショッピングやランチ等の個別の外出も叶えている。外出イベントとして明治村やなばなの里のイルミネーション、野球観戦等、皆が楽しめる外出企画を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の方がみえる利用者様に関してはご家族で管理して頂いているが、ホームで管理している利用者様もみえる。一緒に買い物へ行くときは、本人に渡して、ほしい物が購入できるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎがある時は行い、電話をかけたいと希望がある場合は、ホームの電話を貸している。手紙の投函を希望される場合は投函も支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様に落ち着いて過ごして頂けるよう、黄色の照明を使用している。また、季節にあった飾り付けをして季節感を出し、ゆったりとすごしていただけるよう工夫している。	明るく広々としたリビングは、利用者が集い易くテーブルやソファを配置し、隣接するラウンジではプライベートで自由に寛げる空間となっている。壁には利用者の作品やイベント写真が多数飾られ、利用者や家族が和む工夫がされている。掃除が行き届き、清潔感が感じられる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各リビングにはソファとテーブルがあり、プライベートな空間を用意している。居室とはまた違う空間があり、ゆったりと過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、今まで使っていた家具や寝具、お茶碗など自宅などにあるものを持ってきていただき、自宅と思って安心して頂けるように工夫している。	利用者の持ち込んだタンスや、布団、壁には作品や写真を飾り、それぞれに落ち着ける居室となっている。利用者の身体に応じ床にクッションマットを敷き、敷布団の対応も可能としている。掃除は行き届き、空調の管理や換気等を行い、衛生面に配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人一人の「できること」と「できないこと」を職員が把握し、「できること」を役割としてやっていただく。また、居室やトイレが分かりやすいように工夫し、自立した生活が送れるように支援している。		

## 目標達成計画

作成日: 平成 28 年 12月 31日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	ビルの2、3Fに所在する施設なので日中、夜間の災害対策として、職員一同避難対応の把握と実施がスムーズにできるか。	2～3か月に1回は避難訓練を実践する事。	避難訓練のリーダーを職員の中で必ず1回は担当し意識を高める。毎月のフロア会議で避難の対応を確認し、職員全員で深く周知する事。	6ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。